

# 見事な5位

# フイニッシュ!



アンカー三ツ木が  
最難関区で順位死守、  
副将小笠原も意地の走り

2019全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)は2019年12月30日、静岡県富士宮市と富士市で開かれ、女子駅伝部は2時間26分16秒で過去最高の5位入賞を果たした。前年の11位から躍進した。最長エース区間で福嶋摩耶(経営1)が区間3位の力走で2人を抜いて順位を5位に上げたほか、学生最後のレースに臨んだ小笠原晴季(経営4)が区間2位、今さつき(経営4)が同3位、佐光菜々子(医療栄養4)が同9位など、集大成の走りを見せ、全日本選抜を除いた単独チームでは4番目にゴール。目標の3位表彰台に肉薄する好レースを展開した。

雨模様の中、レースは7区間43・4キロで行われ、女子駅伝部は4年生4人と1年生3人で挑んだ。1区に起用されたのは、高校駅伝強豪の千葉・成田高校出身のスヒードランナーの藤村華純(経営1)。先頭集団につき、1位と15秒遅れの6位で2区の渡辺光美(経営1)に襷をつないだ。渡辺は区間13位ながら粘って9位で3区・今さつきに襷渡し。良い流れを切らさなかった。

今は今年急成長したものの、10月の全日本大学女子駅伝では出場が叶わなかった。その悔しさをぶつける走りでも順位を2つ上げた。管理栄養士を目指している4区の佐光菜々子は、実習などで他のメンバーと一緒に練習ができないことも多く、一人で黙々と走り込んできた「頑張り屋さん」だ。区間9位と踏ん張り、順位を守った。

全日本の5区で8人抜き快走を演じ、エースに成長した福嶋摩耶は、学生長距離界の第一人者が集まった5区で再び快走を見せた。一時は大東文化大学のエース、関谷夏希選手を抜いて4位に上がる強気の走りで、全チームの

## 関東大学女子駅伝 8年ぶり11回目の優勝

女子駅伝部は9月の関東大学女子駅伝で8年ぶり11回目の優勝。10月の全日本では6位入賞し、2年ぶりにシード権を奪還した。大学女子駅伝界では、名城大学、大東文化大学、立命館大学が3強と言われており、今回の富士山女子駅伝では単独チームではこの3強に次ぐ結果となった。有力な1年生が多いチームの来シーズンの飛躍に期待が持てる。

ゴールテープを切る7区・三ツ木桃香 月刊陸上競技提供



4区・佐光菜々子から5区・福嶋摩耶へ  
襷渡し 月刊陸上競技提供



1区・藤村華純から  
2区・渡辺光美へ襷渡し



良い流れに乗って走る3区・今さつき



沿道の声援を受け力走する  
6区・小笠原晴季

## 富士山女子駅伝

—2013年にリニューアル

全日本大学女子選抜駅伝競走は2004年に第1回が埼玉で行われ、07年からの茨城開催を経て09年を最後に休止となった。13年に世界遺産に登録された富士山を仰ぎ見る静岡に舞台を移し、「富士山女子駅伝」としてリニューアルされた。

総合5位 (2時間26分16秒)	名前(学部学年)	記録(区間順位)	通過順位	過去の成績	
				2018年	2017年
1区(4.1* <sub>6</sub> )	藤村 華純(経営1)	13分05秒(6位)	6位	11位	
2区(6.8* <sub>6</sub> )	渡辺 光美(経営1)	21分50秒(13位)	9位	11位	
3区(3.3* <sub>6</sub> )	今 さつき(経営4)	10分20秒(3位)	7位	15位	
4区(4.4* <sub>6</sub> )	佐光菜々子(医療栄養4)	14分39秒(9位)	7位	11位	
5区(10.5* <sub>6</sub> )	福嶋 摩耶(経営1)	35分07秒(3位)	5位	11位	
6区(6.0* <sub>6</sub> )	小笠原晴季(経営4)	20分13秒(2位)	5位	11位	
7区(8.3* <sub>6</sub> )	三ツ木桃香(現代政策4)	31分02秒(13位)	5位	8位	

# 全選手が落ち着いて 力を出した (赤羽) 監督

## 富士山女子駅伝 レース後コメント



レース後の報告会を終えチーム一同で記念撮影

目標の表彰台にはあと一歩届かなかったものの、必達の5位をクリアした女子駅伝部。アンカーの三ツ木桃香主将のゴール後は、笑顔で健闘を称えた。選手、主務、監督、コーチのコメントは以下の通り。

(一)内は出身高校

来シーズンは、新チームとなりますが、今回以上の走りをして、1年ずつ順位を確実に上げていけるように頑張ります。

■1区・藤村華純 (成田)  
1区は経験がほとんどなメンバー前ほど緊張しましたが、練習で何度も坂の練習をしてきたことを思い出し、楽しみな気持ちでスタートラインに立てたと思います。上り道で思ったよりも余裕を持って走ることができましたが、先頭が切り替えたところについていくことが出来ず、ラスト1km少しづつ離されてしまいました。設定されていたタイム通りでは走れたのですが、あと少し粘らないといけないなと思いました。課題もありましたが、自信をつけられた大会になったと思います。

■2区・渡辺光美 (市立船橋)  
1区で良い流れで持ってきてくれた走りやすい状況でした。最初から思い切って走り、良い流れで1秒でも早く走すことを意識して走りました。自分の今の力の最低限の走りをするとは出来たと思います。また、今まで周りの大学のエースの人と走る機会があまりなかったため、自分にとって挑戦する良い経験になりました。チームとしては3位には届かなかったのですが、みんなの今のペースの力を合わせ、5位という結果を得ることが出来たと思います。今回の駅伝は4年生の力の強さを感じたレースだったので、これから新体制でもっとレベルアップしたチームになれるように頑張っていきたいと思えます。

■3区・今さつき (常盤木学園)  
関東駅伝と全日本駅伝で走れなかった分、引退レースとなる富士山女子駅伝に力を出したいと思って、自分の持っている力を最大限に発揮できようという思いで走っていました。大会1週間前から調子が良かった。大会当日は、スタートから最後まで調子が良かったです。このままの調子で走りたいですが、ここまでではないレースにすることができました。設定タイムをクリアし、さらに区間3位になることができて、10年間陸上続けてきた中で最高の走りでした。本言に寒い中、現地で応援してくれた方やテレビで観戦してくれた方、ありがとうございました。

■4区・佐光菜々子 (千種)  
順位を上げるのが悔しいですが、目標タイムはクリアすることができ、最低限自分の走りでは走れたと思います。また、ラストランのレースを楽しめたことが、なにより良かったと思います。全日本で走れなかった悔しさを胸に、練習はもう

るん普段の生活から身体作りまで、全力で取り組んできたこと、後悔はひとつもありません。今後は管理栄養士としてこのチームに残り、選手の食事や栄養のサポートを行う立場になります。日本という目標に向けて頑張りますので、今後とも城西大学女子駅伝部の応援をよろしくお願いします。ありがとうございます。

■5区・福嶋摩耶 (窪田)  
失敗を恐れず、攻めの走りでも積極的に前半から行ったことはすごく良かったと思います。すごくいい経験が出来ましたが、まだまだ課題となることも多く、沢山の収穫があるレースでもありました。来年につながるような走りではなかったかと思えます。このチームで5位という結果を残せたことはとても良かったです。このチームで戦える最後の試合を楽しんで、悔しさを乗り越えたいと思います。

■6区・小笠原晴季 (市立船橋)  
前半区間の良い流れを受けて楽しみな気持ちで走ることができました。区間2位ではありましたが、目標タイムには届かず、改善できる部分や伸ばせるところがあると感じました。大会1週間前から調子が良かった。大会当日は、スタートから最後まで調子が良かったです。このままの調子で走りたいですが、ここまでではないレースにすることができました。設定タイムをクリアし、さらに区間3位になることができて、10年間陸上続けてきた中で最高の走りでした。本言に寒い中、現地で応援してくれた方やテレビで観戦してくれた方、ありがとうございました。

■7区・三ツ木桃香 (春日部東)  
今回の富士山女子駅伝に向けて私たちは3位入賞5位以内必達を目標として全力で取り組んできました。その結果が5位入賞につながったこと、はじめてうれしく思います。また、一度は4位まで上がり、3位も見えぬ位置に立てたことも、来年以降につながる大きな収穫であったと感じます。チームとして目指す日本一というところへ着実に前進していることを結果として示せたのではないかなと思います。1年間、主将という立場でチームを引っ張っていき、不安やプレッシャーもありましたが、ここまで来ることが出来たことへの安堵の気持ちと自分を主将として立ててくれた仲間への感謝の気持ちでいっぱい입니다。2020年の新チームも応援のほど、よろしくお願ひ致します。

### 第96回箱根駅伝 城西レッドで往路3区を駆け抜ける 菅原が関東学生連合メンバーとして出場



第96回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)の関東学生連合の一員として選ばれた男子駅伝部の菅原伊織(経営3)が1月2日、往路の3区(21・4km)を走った。菅原は1時間3分30秒と参考記録ながら出場20校の選手の中で11番目の記録で戸塚一平塚間を駆け抜けた。写真。

菅原は昨年10月の箱根予選では全体の84番目、11月の第51回全日本大学駅伝では3区2位と健闘。新チームでは中心選手としての活躍が期待される。菅原は「応援があり、練習が充実している。沿道からの声援がとても励みになります。沿道からの声援がなくても、それが力になり、自分の実力以上の走りが出来ました」とレースを振り返り、「去年は大きな舞台で勝つことが出来なかったのが、関東インカレや箱根予選会などで日本人トップを取れるように頑張っています」と新シーズンへの意気込みを語っている。

### 「JOSAIスポーツフィールド」誕生！ —硬式野球場とともに整備進む

サッカー場2面とソフトボール場などを備える下川原グラウンド(仮称)の名称が「JOSAIスポーツフィールド」に決まった。硬式野球場の人工芝化とともに整備が進められている。硬式野球場の工事は2月に終了予定。JOSAIスポーツフィールドの竣工は9月の予定だが、サッカー場1面が今月、先行オープンした。両施設の整備は、関東リーグ2部復帰を目指すサッカー部と首都大学野球1部リーグ復帰を目指す硬式野球部の強力な支援、となりそうだ。

サッカー部は昨年11月、3度目の関東リーグ2部昇格をかけて関東大学サッカー大会に臨んだが、昇格決定戦には進めなかった。新主将の片倉誠也(DF、経営3)は「主将として、しっかりとサッカーに真摯に向き合っていきたい。埼玉(1部)では圧倒して、関東の昇格決定戦に臨みたい」と来季を見据えている。また、チームのエースストライカーに成長したトドカ・チャールズ(FW、経営3)も「昨年はチームとしても個人としても非常に悔しい結果に終わり、今年にける思いは人一倍強い。個人としては得点という結果を残し、チームの目標達成の力になりたい」と決意を語っている。



整備が進む JOSAI スポーツフィールド

**取材スタッフ**  
本多 里菜 (薬学部6年) 千田 夏生 (薬学部4年)  
君島 麻未 (経営学部3年) 宝蔵寺佑樹 (現代政策学部3年)  
傳法谷佑樹 (現代政策学部3年) 石川 慧 (現代政策学部3年)  
西村 太郎 (現代政策学部3年)

**アドバイザー**  
知見寺美紀 (2014年度卒業) 吉田美咲 (2015年度卒業)  
高桑麗美 (2017年度卒業)

**記者募集**  
記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材・書き方を基本から指導します。興味がある学生、やる気がある学生、大歓迎です。写真、イラスト、漫画などでも協力してくれる学生もぜひ参加してください。  
連絡はこちらまで ▶ [j-sports@josai.ac.jp](mailto:j-sports@josai.ac.jp)